

# 喀痰吸引等研修 指導者マニュアル

第三号研修(特定の者対象)



平成30年度障害者総合福祉推進事業  
介護職員による喀痰吸引等のテキスト等の作成に係る調査研究  
編纂委員会 編集

## 研修講師の方へ

### 基本研修：

初めて喀痰吸引や経管栄養を学ぶ介護職員等への指導として、まず第Ⅰ章及び第Ⅱ章の内容の2つの講義を行います。内容はすべて動画に収録してありますので、講師の方が動画やテキストを用いて講義をして下さい。

なお、最初の講義の「重度障害児・者等の地域生活等に関する講義」については、必ずしも医師・看護師等が講義を行う必要がない講義ですのでご承知おきください。

その後1時間の演習を行います。限られた時間ですので、前述の講義で説明されている喀痰吸引は93～113頁、経管栄養の注入は、122～132頁の手順を参考に、必要物品を準備し、適宜アレンジしながら行って下さい。

評価は、巻末資料の「評価票」を適宜利用して行って下さい。

最後に受講者に対して試験を行います。この試験は落とすためのものではなく、知識定着の確認のための試験ですので、講義での内容や演習を通じて重要なポイントが理解でき、合格点が得られるように、ご指導ください。

演習の評価については、各対象者がいる現場において、対象者が実際に使用する吸引器や気管カニューレを用いて行います。一連の行為はすべての項目が「手順通りに実施できる」となった場合に修了となり、実地研修に進みます。

### 実地研修：

実地研修用に、喀痰吸引と経管栄養に関する演習の手順と留意点（留意事項）および指導のポイントに関する説明と、評価票を掲載しています。

喀痰吸引の評価票に関しては、以下のバリエーションを準備しました。これら全てを行うのではなく、対象者の状況に応じて使用してください。

- 口腔内の喀痰吸引（通常手順）
- 口腔内の喀痰吸引（人工呼吸器装着者：口鼻マスクによる非侵襲的人工呼吸療法）
- 鼻腔内の喀痰吸引（通常手順）
- 鼻腔内の喀痰吸引（人工呼吸器装着者：口鼻マスクまたは鼻マスクによる非侵襲的人工呼吸療法）
- 気管カニューレ内部の喀痰吸引（通常手順）
- 気管カニューレ内部の喀痰吸引（人工呼吸器装着者：侵襲的人工呼吸療法）

なお、手洗いに関しては、対象者の体位を調整するなど対象者の体に触れた場合、吸引を行う直前に改めて行うべきと考え、訪問時の手洗いと別に記載しました。

経管栄養の評価票に関しては、以下のバリエーションを準備しました。これら全てを行うのではなく、対象者の状況に応じて使用してください。

- 胃ろう又は腸ろうによる経管栄養（滴下型の液体栄養剤）
- 胃ろうによる経管栄養（半固形栄養剤）
- 経鼻経管栄養（滴下型の液体栄養剤）

演習及び実地研修の評価票については、上記の喀痰吸引、経管栄養とも標準的な手順にしたがって作成していますが、実地研修講師となる看護師等、対象者本人、家族等とよく相談し、当該「特定の者」に適合した方法になるよう適宜アレンジしてご使用下さい。なお、実地研修の合格終了の判定は、評価票のすべての項目について実地研修講師となる看護師等の評価結果が、連続2回「手順通りに実施できる」となった場合となっています。

# CONTENTS

## 第1章 | 重度障害児・者等の地域生活等に関する講義

学習のポイント	1
<b>0. 喀痰吸引等研修の概要</b>	
0-1 介護職員等による喀痰吸引等（特定の者対象）の研修カリキュラム概要	2
0-2 【特定の者】 基本研修カリキュラム	2
0-3 【特定の者】 実地研修	3
<b>1. 障害保健福祉制度の概要</b>	
1-1 障害保健福祉施策の歴史	4
1-2 障害者総合支援法	5
1-3 障害者の権利に関する条約	6
1-4 障害児・者を支える制度	8
<b>2. 喀痰吸引等制度の成り立ち</b>	
2-1 実質的違法性阻却	9
2-2 介護職員等によるたんの吸引等の実施のための制度の在り方に関する検討会	10
2-3 喀痰吸引等制度の概要	10
2-4 特定の者を対象とした喀痰吸引等の基本的な考え	13
<b>3. 重度障害児・者についての理解</b>	
3-1 障害・疾病についての理解	15
3-2 障害の概念（ICF）	21
3-3 心理についての理解	22
3-4 福祉業務従事者としての職業倫理と利用者の人権	24
<b>4. 喀痰吸引等制度の運用</b>	
4-1 喀痰吸引等の業務ができるまで	25
4-2 喀痰吸引等の実施に必要な事業者の体制づくり	26
4-3 喀痰吸引等の提供の具体的なイメージ	30
4-4 多職種連携の実際	32
参考資料	39

# CONTENTS

## 第Ⅱ章 | 喀痰吸引等を必要とする重度障害児・者等の 障害及び支援に関する講義 緊急時の対応及び危険防止に関する講義

学習のポイント	57
<b>1. 健康状態の把握</b>	
1-1 観察と測定	58
1-2 いつもと様子が違うときの対応	60
<b>2. 感染予防</b>	
2-1 感染予防知識	61
2-2 感染予防の具体的な方法	62
<b>3. 呼吸の仕組みと呼吸障害</b>	
3-1 呼吸の仕組み	65
3-2 呼吸障害	66
3-3 人工呼吸器療法	71
3-4 人工呼吸器使用者の緊急時対応	74
<b>4. 喀痰の吸引</b>	
4-1 喀痰を吸引する部位の解剖	76
4-2 喀痰吸引の基本	79
4-3 喀痰吸引のコツと注意点	86
4-4 喀痰吸引の物品・手順	91
4-5 演習の手順—口腔内・鼻腔内吸引	93
4-6 演習の手順—気管カニューレ内吸引	100
4-7 ヒヤリ・ハット、アクシデント	113
<b>5. 経管栄養</b>	
5-1 栄養補給と経管栄養法	115
5-2 経管栄養の物品・手順	120
5-3 演習の手順—胃ろう（滴下型の液体栄養剤）	122
5-4 演習の手順—胃ろう（半固形栄養剤）	128
5-5 演習の手順—経鼻経管栄養	131
5-6 緊急時対応	132
参考資料	134

## 第Ⅲ章 | 喀痰吸引等に関する演習

学習のポイント	151
1. 口腔内の喀痰吸引	152
2. 鼻腔内の喀痰吸引	159
3. 気管カニューレ内部の喀痰吸引	166
4. 胃ろうによる経管栄養（滴下型の液体栄養剤）	174
5. 胃ろうによる経管栄養（半固形栄養剤）	180
6. 経鼻経管栄養（滴下型の液体栄養剤）	186
巻末資料	193

